

失ってはならないものがあります。

子どもたちに貴重な自然を残そう

町田市の野津田公園にスケートパークを建設する計画が進んでいます。その場所は湿性植物園、子どもたちが遊べる数少ない水辺です。

大切な湿性植物園をつぶして

野津田公園北側にある湿性植物園は、小規模ながらも東京都の絶滅危惧種に指定されているアカガエルやミドリシジミ、ハンノキそしてオグルマを始め、多種多様で希少な動植物が生息する貴重な場所です^{注1}。

昨年、スケートボードパークの基本設計の予算が通り、計画が動きだしました。私たちは貴重な水辺環境を公園に残したいと計画の中止を町田市に求め、またこのことが周辺施設・住民には知らされていないことに抗議しました。その結果、説明会が今年の1月25日によりやく開かれることが決まったのです。



湿性植物園で撮影された東京都指定の絶滅危惧種のミドリシジミ(上)とオグルマ(下)

説明会の突然の中止と異例の基本設計やり直し

ところが開催される予定の説明会は理由もなく突然、直前に中止になりました。その後9月の市議会に基本設計の変更案が提示されました。それによれば、伐採される樹木が大幅に増え、湿地全体がコンクリートで固められ、夜間照明が設置されて関連するイベントも開催できるとのことです。なぜ、そのような計画の変更が必要になったのでしょうか？生態系への影響を考慮するとの当初の姿勢はどうなったのでしょうか？このような計画では湿地だけを失うのではありません。これに繋がっている野津田の自然の生態系に壊滅的な影響を与えてしまうのです。

不透明な計画変更

私たちは説明会の中止を受けて、情報公開請求により中止に関する文書の公開を求めましたが、一切ないとの回答でした。では一体誰が説明会の中止を決定したのでしょうか？また市民も協力して策定した計画案を撤回し、税金を二重に使用してまで基本設計をやり直すという異例の決定が何処で、誰が、なぜしたのでしょうか？まったくわかりません。意志決定のプロセスの透明性こそが、開かれた市政の根幹と考えます。これからも説明を求めて行きます。

はらっぱはただの空き地ではありません。

また、野津田公園の南入り口広場（通称「上の原はらっぱ」）に、スタジアムの大型バスの転回場をつくる計画が進んでいます。町田市は、この広場は”自然地^{注2}ではない”とし、開発に必要な環境調査を行っていません。私たちは東京都多摩環境事務所を訪れ、この広場は里山の一部であり、多様な動植物が生息する自然地であることをデータと写真で説明し、現況、公園管理を行っている指定管理者と共に生物多様性を目途にした草地ビオトープを試行していることも報告。”自然地である”との理解を得ています。「上の原はらっぱ」は、ただの空き地ではありません。多様な生物の生存空間とスケールの大きい景観が残されている事こそ、この場所の生命であることを決して忘れることがあってはならないのです。ここに大型バス転回広場ができると牧歌的な里山景観は大きくそがれ、自然は急速に単純化してしまうことは明らかなです。



四季折々の草花に彩られる上の原はらっぱ

未来の子どもたちに誇れる判断を！

スポーツも大切です。でも自然は一度壊してしまえば、もうもとには戻りません。湿性植物園も上の原はらっぱも、多摩丘陵地域に数少なくなった大切な場所なのです。今の子どもたち、そして未来の子どもたちに大切な自然を残すために、町田市が計画の中止をするように声を上げましょう。

注1 野津田・雑木林の会 (<http://www.nozuta.net/>) または町田市立野津田公園のホームページを参照

注2 自然地とは、樹林地、草地、農地、池沼等又はこれに類する状態にある土地をいう。（東京における自然の保護と回復に関する条例参照）

野津田公園の一方的な変更を憂慮する有志の会
野津田・雑木林の会 農村伝道神学校 共働学舎

問い合わせ・連絡先：nozuta.staff@gmail.com（野津田・雑木林の会）